

カタカナ語による英語学習への影響 ～高津生の英語力から見る～

英語班：植田 莉心 関 聡太 福山 萌菜 藤山 奈々花

要約

本研究の目的は、カタカナ語が英語学習にどのような影響を及ぼすのかについてを明らかにすることである。単語の意味を問うアンケート調査によって、和製英語を和製英語であると正しく答えられた例が50%以下ということから、和製英語は英語と見分けることが難しく、知識による影響が大きいことがわかった。しかし、この調査だけではカタカナ語の混同によって英語学習能力が下がっているとは言えないと結論付けた。

Abstract

The purpose of this study is to investigate that how Katakana affects English learning. An online survey was conducted which asked the meaning of words written in Katakana and their English equivalent. Respondents were asked to determine if the Katakana correctly modeled the English or if it was an approximation of English used by Japanese speakers. Results show that the percentage of correct answers which identify Japanese English is 50% or less. This study concludes that Japanese English is difficult for native Japanese speakers to distinguish from English, and is mostly dependent on individual knowledge. However, this experiment alone does not mean that English proficiency is reduced due to use of Katakana, which approximates English words and phrases.

1. 序論

新型コロナウイルス (COVID-19) に関するニュースで、クラスターやオーバーシュートなどの多くのカタカナ語が使われていたが、これらは集団感染や感染爆発といったように日本語の方が伝わりやすいと感じた。このように、メディアなどで多くのカタカナ語が使われているのを見て、不必要なカタカナ語が多く使われているのではないかと疑問を持った。そこで、カタカナ語と英語を混用してしまうことにより英語能力が下がっているという仮説を立て、カタカナ語が英語学習にどのくらい影響しているかを調査した。

2. 研究手法

高津の2年生190人を対象に英語かカタカナ語かを見分けられるのかを調査するために、15個の単語を用意して、アンケートを実施した。そして、高津の2年生のデータと大学の先行研究とを比較した。

《調査した単語》

(和製英語) アイスコーヒー レベルアップ プライスダウン クレーム サラリーマン
カンニング セルフサービス ケースバイケース ワイドショー サークル
(英語) リーズナブル カタログ バリアフリー フライトアテンダント
ジェネレーションギャップ

《アンケートの例》

(1) アイスコーヒー (ice coffee)

① 英語 ②和製英語 ③分からない

(a) cold coffee (b) iced coffee

3. 結果

アイスコーヒー、ワイドショー、レベルアップ、セルフサービス、ケースバイケースが、先行研究と高津で共に正答率が50%以下であった。高津と先行研究の正答率の差が10%以下だったのは、カンニング、カタログ、アイスコーヒー、バリアフリー、ワイドショー、プライスダウンで、20%以下はレベルアップ、サラリーマンだった。また、高津と先行研究の平均正答率の差は約10%であった。

4. 考察

先行研究と平均の差ができ、単語を訳すことができなかつたのは知識の差があるからだと考えた。正答率が50%以下の単語は全て和製英語だったことから、和製英語は意味が混同しやすいと考えられる。

5. 結論

カタカナ語が英語学習にどのような影響を及ぼすのかについて明らかにするために和製英語が英語ならどの単語に当たるのかを問うアンケート調査をすると、和製英語だと正しく認識している例が50%以下であった。このことから、和製英語は英語と見分けることが難しく、知識による影響が大きいことがわかった。また、この実験だけではカタカナ語の混同によって英語能力が下がっているとは限らない。今後はカタカナ語による混同が起こっているかどうかを明確にするために別の視点から調査していきたい。

6. 参考文献

森光 有子 中島 寛子 (2008).「日本に溢れるカタカナ語とその影響—大学生のカタカナ語の認識とその影響—」.